

NEWSLETTER

No. 46

11 May 2010

- ・教員の研究室と電話番号・メールアドレス 1
- ・2010年度教員在室時間表 2
- ・大学院生の紹介 3
- ・中山間地域農業参画プロジェクト（宮地ゼミ）報告 5

【教員の研究室と電話番号・メールアドレス】

※地理・環境専攻専任教員は全員世田谷キャンパス(世田谷・梅ヶ丘校舎)にいます

	研究室の場所	研究室電話番号	電子メールアドレス
野口	世田谷校舎 10号館 2F1004 研究室	03-5481-3246	noguchi@kokushikan.ac.jp
長谷川	世田谷校舎 10号館 2F1003 研究室	03-5481-5247	hasegawa@kokushikan.ac.jp
岡島	世田谷校舎 10号館 2F1002 研究室	03-5481-3245	okajima@kokushikan.ac.jp
宮地	世田谷校舎 10号館 2F1001 研究室	03-5481-5278	tmiyachi@kokushikan.ac.jp
内田	世田谷校舎 10号館 4F1025 研究室	03-5481-5291	uchida@kokushikan.ac.jp
磯谷	梅ヶ丘校舎 34号館 8F 824 研究室	03-5451-8154	isogai@kokushikan.ac.jp
加藤	梅ヶ丘校舎 34号館 9F 904 研究室	03-5451-8164	k2kato@kokushikan.ac.jp

※教員が大学に在学予定の時間等は次ページの教員在室時間表を参照して下さい。オフィスアワーは基本的に先生が研究室にて学生の質問等に答える時間です。

※それ時間以外の面会・相談なども在室中に短い時間で済む用事であれば、大抵の先生は急用がない限りは答えてくれます。ただし、基本的には相談や面接等は、事前にアポイントメント（アポ；Appointment）をとってからするようにして下さい。オフィスアワーであっても、出張等で不在の場合、他の相談者などがあるため時間が割けない場合もありますので、事前にアポを取る方がお互いに好都合です。大学生としての自覚を持った行動を心掛けましょう。

※したがって、教員の自宅、特に非常勤の先生宅への電話は、先生からの指示がない限りは控えて下さい。

※メールを活用しましょう。多くの先生が電話よりもメールでのアポの方が好都合です。ただし、教員のメールアドレスは携帯のものではありませんので、すぐ返信が来るとは限りません。余裕をもった連絡を心掛けて下さい。アポの際にはメールの標題に、学籍番号・氏名を明記して下さい。先生によっては、標題に番号・名前がないとメールを消してしまう場合があります（迷惑メール・ウィルスメール対策のため）。用件が必ずしも標題になくても大丈夫です。「こんにちは」といった標題のメールは即刻消される場合があるので注意して下さい。

【2010年度 教員在室時間表】

凡例

講義中
 オフィスアワー
 在室の場合が多い

※ 春のみ：春期のみ講義。 ※ 秋のみ：秋期のみ講義。

※ 金曜日は文学部関係の会議が集中する日です。会議のある先生は大学にはいますが、ほとんど会えない場合もありますので、注意して下さい。第3または第4金曜日には**教室会議**（12:00～）・**教授会**（13:30～）があり、教員全員が会議に出るので、その日の午後はほぼ会うことができません。教授会の日程は年間予定表を参照して下さい。

	時限	1	2		3	4	5	
曜日	時間	9:00～10:30	10:45～12:15		12:55～14:25	14:40～16:10	16:25～17:55	
月	長谷川	-----						
	岡島	=====						
	磯谷	-----						
	加藤	=====		秋のみ				
火	野口		-----					-----
				長谷川	-----			
	内田	-----						-----
	岡島	-----					春のみ	
	磯谷	=====		町田校舎				
	加藤	=====					春のみ	-----
水	長谷川	=====						
	岡島	=====		春のみ		秋のみ		
	磯谷	=====						
	加藤	-----						
	宮地	=====		秋のみ				
木	野口	=====						-----
	長谷川	=====						
	内田	-----						
	磯谷	=====						-----
	加藤	-----						
	宮地	=====						-----
金	野口	秋のみ	-----					
	長谷川	秋のみ	-----					
			内田	-----				
			岡島	-----				
	磯谷	秋のみ	-----					
			加藤	-----				
土			内田	-----				

【大学院生の紹介】

地理・環境専攻のことをよく「地理学教室」といいます。これは教員・学生に加えて、大学院生やその他のスタッフを含めた場合の呼称です。本地理・環境専攻には「その他のスタッフ」にあたる人はいませんが、文学部の大学院というべきものとして、大学院人文科学研究科があります。人文科学研究科は、修士課程が2001年に、博士課程が2003年に設置された、比較的「若い」研究科です。

人文科学研究科は人文科学専攻と教育学専攻の2専攻から成り、人文科学専攻はさらに、「日本史・東洋史」、「文学・文化論」、「地理・地域論」の3コースに分かれます。「地理学教室」の大学院生は地理・地域論コースに属する院生であり、正確には「国士舘大学大学院人文科学研究科人文科学専攻地理・地域論コース」という長い肩書きを持つ院生です。現在、地理学教室には4名の院生がいます（ただし、正式にはOBに当たる院生と同じような立場の人が1名いますので、計5名とっていた方が分かりやすいでしょう）。

大学院生は、授業のTA（ティーチング・アシスタント）やゼミによってはゼミナールの一員として会うほか、国士舘大学地理学会にも顔を出しますし、10号館2階の地理情報処理室で作業をしていることも多いので、見かけることも少なくないと思います。

そうした関係上、「誰が大学院生かは何となくは知っているけど、顔と名前が一致しない」という人が多いことでしょう。そこで今回は大学院生に簡単な自己紹介文を寄稿してもらいました。

地理情報処理室は基本的に研究の場ですので、おしゃべりに来るだけの人は困りますが、院生と親しくなっておけば、勉強や研究の良いきっかけが得られるかもしれません。是非、顔と名前くらいは覚えてあげてください。

大学院なんて多くの人には遠い存在に感じられるかもしれませんが、とはいえ本当の意味で、大学での学問を直接職業に活かすような人材（文科省用語で「高度専門職業人」と言います）になる上では、大学院での勉強は欠かせない時代になってきています。5名のうち、2名は大学卒業後に即大学院に進学したわけではないという事実がそのことを物語っているといえるかもしれません。

大学院については、大学院のホームページ（<http://www.kokushikan.ac.jp/faculty/GS/index.html>）を見てもピンと来ないというのが正直なところだと思います。詳しい話に興味のある人は教員に質問してもいいですし、それよりも院生に聞くのがもっとも手っ取り早いかもしれません。

そのためにも顔と名前は覚えておきましょう。

M1 池田雄斗 （修士課程1年生はM1と略します。これは全国共通）

大学院修士一年の池田雄斗（指導教員は内田先生）です。研究分野はおもに観光地理学で、卒論では奈良県明日香村観光における『ふるさと』演出について研究していました。ほかにも、グリーンツーリズム・景観・真正性・風景・町並み、といったキーワードに興味を持ち、上記の内容から修士論文を執筆できるよう励んでいます。年齢は24歳、出身校は都立駒場高校で、当時は毎日サッカーばかりしていました。大学に入学してから旅行に関心を持ちはじめ、最近ではカンボジアのアンコールワットを訪れています。共通点があってもなくても、ぜひ気軽に話しかけて下さい。どうぞよろしくお願い致します。



M2 岩崎慶太

大学院修士課程2年の岩崎慶太です。自然好き、生き物好きで、磯谷先生のもと植生地理学を学んでいます。研究内容は、卒論の時から照葉樹林の分布限界域を対象に、どのような植物が生育していて、どのような広がりを持っているのかを調べています。フィールドワークは、いろんな生き物やきれいな風景など、普段なかなか見ることのできない自然の姿を見ることが出来ます！興味ある方はぜひ、一緒に野外へくりだしましょう！！



M2 竹内えり

こんにちは!!私は、M2 で高知県出身の「はちきん」の竹内えりです（はちきんっていうのは土佐弁で「気の強い女性」という意味で、高知の女性のことを指します）。私の研究分野は地形学で、修士論文の対象地は中東のヨルダンです。日本とは違った気候で、文化も違う国で研究ができて、すごく勉強になります。こんな機会ってそう簡単に得られるものじゃないので、思う存分楽しんでやろうと思っています。ちなみに、趣味は旅行とか探検です。地図片手に自転車で都内をうろうろしたり、長期の休みには18切符で旅行したりしてます。鉄男・鉄子の方は、18切符旅行のおすすめとか教えてください!!



M2 石川貴之

大学院修士課程 2 年の石川貴之です。学部の頃は長谷川ゼミに在籍していました。リモートセンシング画像を利用して、南米大陸のパタゴニア地方にあるパタゴニア氷床について研究しています。近年の地球温暖化に伴いパタゴニアの氷河が地域ごとにどのような変化をしているのかをテーマとしています。茨城県出身の 1983 年生まれ。高校は茨城県立竹園高校出身。趣味はサイクリングです。



OD 後藤智哉 （ODとはOver Doctorの略で、一般に博士課程を修了するか、満期退学した人を指します）

マルハバ！イラク古代文化研究所共同研究員の後藤です。国土館の地理出身です。

長野県で生まれて岐阜の中津高校から国土館地理＋大学院で学んでいました。

大学院時代にイラク復興支援プロジェクトに参加した経緯で、今年の夏から2年間ヨルダンの考古庁で西アジアの遺跡を対象としたジオアケロロジー・衛星考古地理学を研究する予定です。中東に旅行予定がある人はぜひヨルダンに遊びに来てください。待っています。

マッサラーマ！

※ イラク復興支援プロジェクトについては、過去のNewsletterを参照のこと。過去のNewsletterはwebで見ることが出来ます。Newsletter 35以降に数回、その報告が掲載されています。



【中山間地域農業参画プロジェクト（宮地ゼミ）報告】

好天のなか、宮地ゼミで田植えをしました！

宮地ゼミでは、今年も福島県二本松市西谷集落で、年間を通じた農業体験プロジェクト（それを私たちは「中山間地域農業参画プロジェクト」と名づけています）を実施しています（昨年度のプロジェクトについては Newsletter44 を参照下さい）。

4月8日・9日に稲の種まきと苗床づくり、今年から始めることになったしいたけの原木（しいたけ菌を植え付ける木。クヌギなどが使われます）の伐採を行いました。これに続いて5月3日～5日には、田植え、しいたけ・なめこの植菌作業を行いました。しいたけ栽培は、村の里山保全を視野に入れた取り組みです。また、最終日には「集落のいいところ探し」を行いました。毎夜行われた交流会（懇親会）を含め、学生たちは阿武隈の山中で楽しい思い出をつくったことでしょう…。作業は7月、8月の草取り、草刈り、9月の収穫、10月の精米と続きます。11月の学園祭では、焼きおにぎりなどを販売予定です。（宮地忠幸）



▲農家の方の指導を受けて、いよいよ田植えが始まります。



▲4年生と3年生が協力して植えていきます。



▲今回はテレビ局2社、新聞社2社の取材を受けました。



▲無事に田植えが終了。全身泥んこになった学生も…



▲しいたけの植菌作業。しいたけが実るのは約3年後。



▲バーベキューしながら、全員が自己紹介。